



平成26年度 研究紀要
《社会科》

研究主題

気づき、考え、主体的に活動する
子供の育成

～問題解決的な学習を通して～



ふじみ野市立駒西小学校

あいさつ

ふじみ野市教育委員会教育長

朝倉 孝

駒西小学校の授業では、「早く知りたい。」と言って自ら教科書や資料集で調べ出したり、「先生、もっと話し合いたい。」と言って討論を続けたりする児童の主体的な姿が見られます。これは、森川哲治校長先生を中心に全教職員が一丸となって、問題解決的な学習の研究に取り組んできた成果です。今年度、駒西小学校ではふじみ野市教育委員会、埼玉県社会科教育研究会の委嘱を受け、本市や埼玉県の社会科教育をリードする研究を進めていただいております。

駒西小学校の研究の素晴らしさは、研究主題に迫るために、誰でも実践可能な社会科の授業を目指したことであります。今後も、この実践的な研究を、より深化、発展させていただくことを期待します。

最後に、加賀谷徳之先生はじめ指導者の皆様、森川哲治校長先生以下、駒西小学校の教職員の皆様のご苦勞に対し、深く感謝の意を表し結びといたします。

ふじみ野市立駒西小学校校長

森川 哲治

社会科は「教えづらい教科」「苦手の教科」という声がよく聞かれます。この原因の一つに、子供に用語を教えなければならないという思い込みが挙げられます。そこで本校では昨年度より、全教員で一から社会科の授業イメージを共有し、授業研究の輪を広げていくことに取り組み始めました。誰もが授業ができるようになるためのポイントは、①問題意識をもたせる資料提示と学習問題②子供の「問い」を基にすること③教師の「問いかけ」の工夫④社会事象の意味を考えるまとめと考えます。最近、「子供の挙手の数が以前より多くなってきた。」「事実を見つけることを子供たちは大好きになった。」「子供の発表がつながっている間は、教師が語句について自分から説明しなくなってきた。」は成果の一つです。最後になりましたが、埼玉県教育局義務教育指導課指導主事加賀谷徳之先生、本市教育委員会教育長朝倉孝先生をはじめとする学校教育課指導主事の先生方、市内外の先生方に対しまして、貴重なご指導とご助言を賜り、厚く御礼申し上げます。今後も本校の教育活動について、広くご指導・ご鞭撻をいただきたくお願い申し上げます。

主題設定の理由

社会科学習の目標は、よりよい社会づくりのために参画しようとする意欲や態度の基礎を子供に育成することである。そのために、自分から社会や社会事象に「問い」を持ち、問いかける子供を育成することが必要となる。本校は、社会科における問題解決的な学習の在り方の研究を始めて2年目となる。本校の研究の視点は、授業構想と学習問題作りであり、社会事象に対する子供の興味・関心を高めて学習問題をつかませ、問題解決的な学習を進めれば、社会科の事象を身近にとらえ、社会科の学び方を身につけ、主体的に追究する子供が育成できるであろうと考え、本研究主題を設定した。

本校の研究主題にある、『気づき、考える』とは、子供が「問い」を持つことであり、社会的事象について「気づき、考える」ことが、社会事象を「問う」ことでもある。その結果、『主体的に活動する』とは自分から「問い」を持って、資料から目に見える社会的事象(様子、事実)を調べ、その理解を基として「目に見えない社会事象(意味、価値)」を考えられるということである。副主題の問題解決的な学習の実践に当たっては、特に学習問題の設定において、単元全体を見通すもの、子供にとって切実感のあることが必要になる。

1年次(第一段階)は研究の重点として、授業ポイント①②導入の工夫と学習問題づくりで、子供の「問い」から出発することに取り組み始め、子供からの気づき・疑問をだんだんと引き出すことができるようになってきた。2年次(第二段階)は研究の重点として授業ポイント③④「調べる」「まとめ」で「問いかけ」の工夫と社会事象の意味づけに取り組み始めている。そして、社会的事象を一面的でなく、多面的に考えを深めるための話し合いの工夫や社会事象の意味をつかませる時間を通して、自分の考えをまとめて社会事象の特色や意味を考えられる「社会科が好きな子供」の育成を目指し授業の在り方を明らかにしていきたい。

なお、低学年は「学びの土台」を基にした学習意欲の土台づくりに取り組み、学習規律の確立と社会科につながるための自分の考えを書いたり、発表したりする授業の研究とした。

学校課題研究構想

学校教育目標

心豊かな子 (やさしさいっぱい)
健康な子 (げんきいっぱい)
考える子 (やるきいっぱい)

研究主題

気づき、考え、主体的に活動する子供の育成

～問題解決的な学習を通して～

社会科

社会科好きな児童

目指す児童像

① 興味・関心を高めるための資料提示の工夫

5・6年：事象から問題を見出し、主体的に追究する児童
3・4年：事象に関心をもち、進んで調べようとする児童

③ 自分の考えを、理由をつけて話したり書いたりできるようにするための工夫

仮説

② 問題意識をもたせるための資料提示の工夫

児童の興味・関心を高めて学習問題をつかませ、問題解決的な学習を進めれば、社会科の学び方を身につけ、社会的な事象を身近に捉え、主体的に追究する児童が育成できるであろう。

④ 友達の意見や考えと交流し、自他の意見と比べ、話し合いを深めるための工夫

研究の視点

- ・ 単元を見通した授業構想と学習問題作り
- ・ 「つかむ」「調べる」「生かす」授業の確立

授業のポイント①
導入

授業のポイント②
学習問題作り

授業のポイント③
調べる・話し合い

授業のポイント④
まとめ(意味)

学びの土台

目指す児童像

1・2年：楽しく学び、伝え合う児童

楽しく学ぶ
導入や資料の工夫(実物、図、映像、写真)

低学年の仮説：学ぶ意欲をもたせ、基本的な学習規律や考える力の土台を身につけさせる工夫をすれば、学び方を知り、楽しく学び、伝え合う児童が育成できるであろう。

わかりやすい言葉
発問の工夫
指示は短く1つずつ

見える指示・残る指示

板書 マーク カード 予定時刻

学習意欲の土台

思考力・判断力・表現力の土台(考える力)

- ⑦ よさを認める力
- ⑧ みんなで活動する力
- ⑨ 読む(読み取る)力
- ⑩ 考えを探究する力

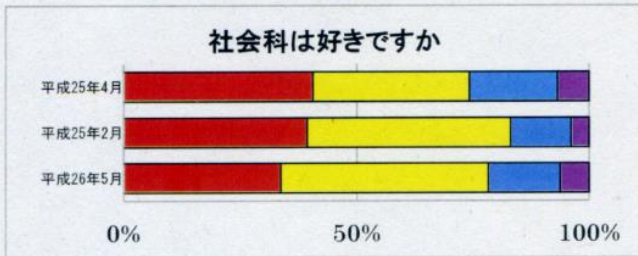
知識・技能の土台(基本的な学習規律)

- ① 学習用具の準備の仕方
- ② 学習用具の片づけ方
- ③ 話し方・発表の仕方
- ④ 聞き方・応え方
- ⑤ 文字の書き方
- ⑥ ノートの使い方

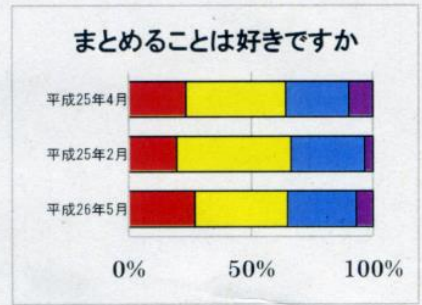
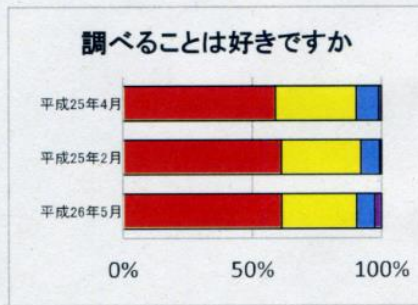
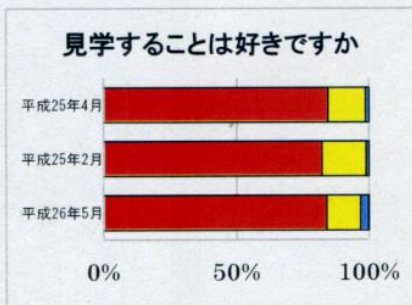
児童の実態

〈3～6年生〉

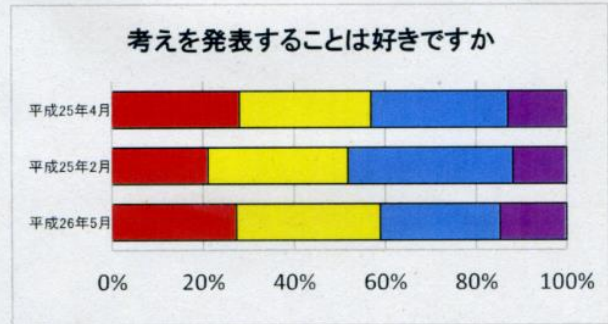
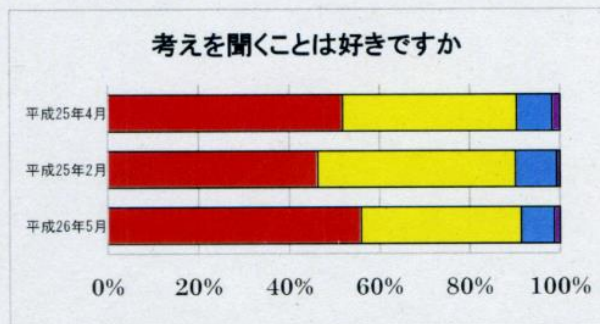
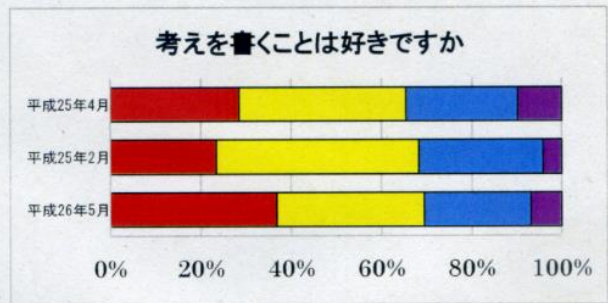
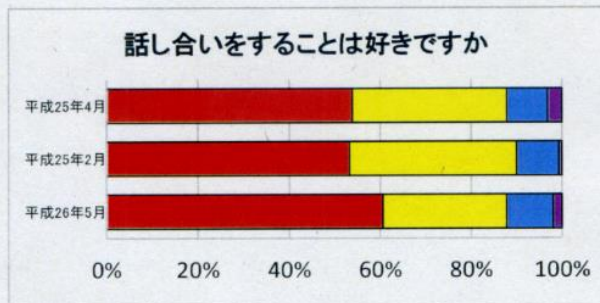
■ 「はい」 ■ どちらかという「はい」 ■ どちらかという「いいえ」 ■ 「いいえ」



社会科が好きな子供は、昨年度は当初よりも研究授業後には好きの傾向が増えた。これは、本研究を通して様々な資料を提示するなど導入の工夫を継続して行ってきたため、子供の興味・関心が高まり、意欲的に取り組めるようになってきたからであると考えられる。



見学したり調べたりすることに対しては意欲が高かったが、活動を通して学んだことをまとめることに対しては意欲が下がっている。このことから、学習内容を文章に整理することに苦手意識があることがわかる。そのため、今年度は、子供の意欲がまとめる過程まで持続するような導入資料の提示や、キーワードを利用し、子供が自分の力でまとめを書くことができるようにする工夫を行っている。



昨年度からの傾向として、話すこと、聞くことに対しては意欲が高いが、自分の考えを整理して書くことや、発表したり、相手にわかりやすく説明することに対しては苦手意識があることがわかる。そのため、今年度は、互いの考えを認め合える雰囲気づくりや、話し合いの楽しさを味わわせたり、話し合いが深まったりするような手立てを工夫している。また、授業展開を統一し、まとめを中心に書き方の指導に取り組んだ結果、子供は、予想やまとめ、自分の考えの書き方がわかり、くり返しによる積み重ねから、書くこと、発表することの項目では徐々に苦手意識が減ってきている。今回の研究を通じた取り組みで、数値の向上を図りたい。

授業研究部の取り組み


○取り組みのねらい

研究構想に基づいて授業展開や指導方法などを検討し、研究に沿った授業づくりができるようにする。

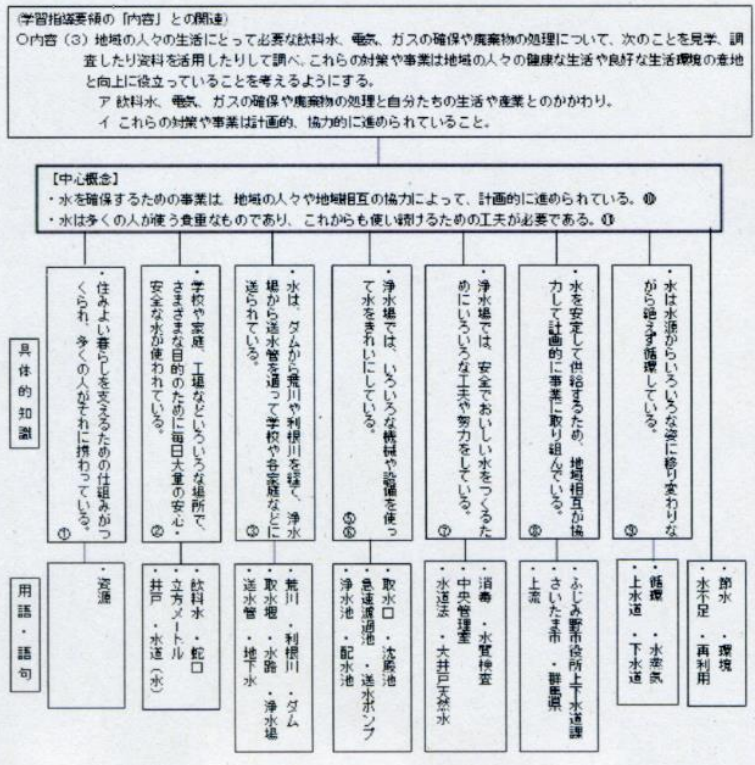
○取り組みの内容

(1) 授業のポイントを明確にしたり、指導案形式を共通にしたりし、授業が研究の方向性に沿えるようにした。

**今年度は、・単元を見通した授業構想と学習問題作り
・「つかむ」「調べる」「まとめる・生かす」授業の確立**

	単元の流れ	1時間の流れ
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の問題意識を高め、子供の問い(疑問)をもとに単元の学習問題を作る <p>学習問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や経験、導入資料から、学習問題に対する予想を立てる。 ・調べていく事柄を整理して柱立てし、学習計画を立てる。 	<p>① 資料提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいに対して興味・関心を高める資料を提示する 
調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・柱立てをもとにし、教科書や資料集、見学やインターネットなどいろいろな方法で調べる。 ・事実をもとに分かったこと、考えたことを話し合う。 ・調べたことをもとにし、それぞれの柱立て(学習のねらい)に対する結論(まとめ)を導き出す。 	<p>② 話し合い活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から事実を読み取る ・分かったことを(理由や根拠をつけて)発表し合い、社会的事象の意味について話し合う
まとめる(生かす)	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習問題に対する結論を話し合い、導き出す。 <p>結論(まとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かしてよりよい社会づくりへの関わりを考える。 	<p>③ まとめる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいに沿って、自分の考えをまとめ、話し合い、学級の結論を導き出す。

(2) 知識の構造図(指導案の中に指導計画と関連づけて、位置づける)



学習指導要領の「内容」との関連

中心概念

本小単元の学習を通して最終的に獲得させたい知識。

具体的知識

説明することができる知識。1 単位時間ごとに1つの具体的知識に絞る。

用語・語句

各単位時間ごとの具体的知識を理解させ習得させるために必要となる用語・語句。習得していないと、今後の社会科などの授業で支障をきたすもの、日常生活において十分な活動ができなくなる恐れがあるものに限定する。

資料作成部の取り組み

○取り組みのねらい

研究構想に基づいて校内掲示の整備に努め、学習をより身近に感じられる環境をつくる。

○取り組みの内容

- (1) アンケート結果をもとに児童の実態を分析し、全体会で報告した。
※児童の実態（3ページ）参照
- (2) 「社会科コーナー」にパソコンを設置し、社会科クイズができるようにする等、様々な工夫をした。



社会科コーナー



平面作品



社会科クイズに挑戦

- (3) 各学年の学習内容に合った掲示物を作成した。



1年生：はたらく自動車



2年生：川越マップ



3年生：地図記号



4年生：都道府“犬”と県の旗



5年生：都道府県と県の形



6年生：歴史上の人物と出来事

外部との連携



3年「古い道具とむかしのくらし」
歴史民俗資料館



4年「県の立体地図作り」
文書館



6年「古代から教室へのメッセージ」
埋蔵文化事業団



6年「長く続いた戦争と人々のくらし」
平和資料館

《その他、連携した施設》

- 5年「自動車工場」富士重工 大田矢島工場
「エコロジーについて」環境科学国際センター
- 4年「火事がおきたら」入間東部地区消防本部
「水はどこから」大久保浄水場
「ごみの処理と利用」上福岡清掃センター
「特色ある地域」川越市立博物館・喜多院など
「伝統工芸細川紙」東秩父村和紙の里
「三富新田」三芳町立上富小学校
「三富の開拓」三芳町立歴史民俗資料館
- 3年「スーパーマーケットでたらく人」ヤオコー
「農家のしごと」近隣の農家
「私たちの町の公民館」上福岡西公民館

〈この単元で身につけさせたい土台〉

学習意欲の土台

挿絵、動画、写真からはたらきやつくりに興味関心をもたせ、自分で選んだ車について学んだ方法を生かして調べようとする意欲を高める。

知識・技能の土台

文章や挿絵を基に読み比べ、見つけたことを適切にワークシートに記入する力を高める。

思考力・表現力の土台

理由をつけて、自分の意見を言える力、相手の考えの違いに気付き、それを認める力を高める。

楽しく学ぶ



写真を見て、はたらきとつくりを考える。班内で分担して、書画カメラを活用して、大型テレビで発表する。

見える指示



挿絵を拡大表示。キーワードは見やすくカードで表示

「はしご車のつくりを見つけましょう。」など短い言葉で課題を指示し、児童に活動内容が明確に伝わるようにする。

わかりやすい言葉



一人読み・ペア読み・全体読みをしましょう。見つけたはたらきやつくりを○で囲み、その違いや似ているところを比較させる。

めあて：〇〇車のはたらきとつくりを見つけよう。
自分でえらんだ車ののりものずかんをつくろう。

まとめ：〇〇車のはたらきとつくりを、絵と文章でまとめる。
自分でえらんだ車について、紹介文を書く。

成果

- 〇挿絵や文章を見て、はたらきとつくりを読み比べながらメモにまとめることができるようになった。
- 〇自分の考えを基に、班内でわかったことを話し合い、次にみんなの前で発表する形態を経験できた。
- 〇自分で選んだ車について、授業で学んだ学習形態を使って、図鑑にまとめることができた。

課題

- △話し合いの仕方を理解し、身につけさせるために、各学年で統一して、年間を通して、話し合い活動が積み重ねていく。
- △班で話し合った内容をまとめ、みんなの前で、班内で分担して発表出来るようになるとうい。
- △めあてにそって、学習のまとめが書けるようになるとうい。

〈この単元で身につけさせたい土台〉

学習意欲の土台

課題を児童と共に考え、単元の導入で物語の舞台となる場所とその様子を身近に感じられるようにし、意欲を高める。

知識・技能の土台

話し方・聞き方の揭示をし、話し合いに必要な力を高める。言葉に依拠した読みを深めるために視写する力を高める。

思考力・表現力の土台

理由をつけて自分の意見を言える力、相手の考えの違いに気付き、それを認める力を高める。

楽しく学ぶ



ICT(写真)を見て、モンゴルの広い草原について考える。馬頭琴の演奏をCDで聴く。

見える指示



意図的に話し方・聞き方の揭示に触れ、意識づける。書く内容に合わせてワークシート内の枠を分りやすく区別する。

わかりやすい言葉



一人読み、一斉読み、相談タイム(ペア学習)、よい姿勢など短い言葉で指示を出す。

めあて：モンゴルの広い草原やぐらし、馬頭琴について考えよう。

まとめ：モンゴルでのぐらしでは、馬は羊や牛などかうときの大切などうぶつ

成果

- 〇児童の言葉を使いながら、めあてをつくることができた。
- 〇理由をつけて自分の考えを楽しく言えていた。
- 〇児童がモンゴルの草原や馬・羊などの写真から物語の舞台のイメージを持つことができた。
- 〇馬頭琴の演奏を聞かせることで、次時へ余韻を残し、期待を持たせることができた。

課題

- △話型として、答えが1つしかない場面と、多様な考えの出る場面として使い分ける必要がある。

第3学年 小单元名 農家のしごと (8/11時) 平成25年11月29日

〈つかむ〉 →

興味・関心を高める導入



実物資料のかぶの葉が揃えられていることに着目し、箱詰、運搬をしやすい工夫であることに気付く。

本時の学習問題と予想



生活経験をもとに、箱詰めされたかぶが、どこへ運ばれていくか、自分の考えを書く。

〈調べる〉 →

視点を明確にした読み取り



学習問題に迫る話し合いを目指し、3種類の資料を準備。資料から「かぶの行き先」を調べる。

根拠をもたせた話し合い



資料をもとに、かぶの行き先を班で話し合って全体に発表する。

〈まとめる・生かす〉

本時の学習問題のまとめ



板書内容を見て、かぶの行き先を確認し、児童の言葉を入れながらまとめる。

学習問題：

作った野菜の旅を調べよう。

まとめ：地域の農家で作られた野菜は、地域で売られるだけでなく、ほかの市や県でも売られている。また、ほかの地域の野菜もふじみ野市で売られている。

成果

- 学習問題に対して自分の考え(予想)を持ち、意欲的に学習に取り組む子が増えた。
- 多くの資料から目的に合った資料を精選し、効果的に使うことの大切さを感じることができた。
- 学習したことが視覚的に分かるように、板書を工夫で来た。また、廊下に掲示したことにより、ふりかえりと意欲付けにつながった。

課題

- △見学したことをもとに学習を進めるため、指導計画や見学での視点等細かく見通しを持つことが大切である。
- △児童が興味を引く導入、意欲的に話し合いを進めるための資料の準備。
- △話し合いの仕方を身につけ、資料を見て考えを持てる子を日常的にいろいろな場面で育てていく。

第4学年 小单元名「わたしたちの埼玉県(1) 県の様子」(2/12時) 平成25年12月6日

〈つかむ〉

興味・関心を高める導入



文書館と連携し、事前に埼玉県の立体地図作りをすることで、学習への興味・関心を高める。

視点を明確にした読み取り



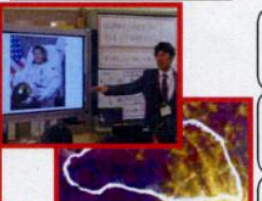
立体地図を見ながら地形と方位に着目し、埼玉県の土地の特徴を読み取る。

根拠をもたせた話し合い



読み取ったことをもとに、班で意見を伝え合い、その後、全体で確認する。

子どもから疑問を生み出す資料提示



「光の多い所はどんな所でしょう」と投げかけ、児童からさまざまな疑問が出るようにする。

小単元の学習問題を作る

- ①埼玉県は土地の特色を生かして何をしているのか調べよう
 - ②埼玉県ではどこに人がいっぱい住んでいるのか調べよう
 - ③埼玉県の電車や道路の通り方について調べよう
- 本時で話し合ったことや出された疑問から3つの学習問題を作る。

学習問題：ぼくのわたしのオリジナル埼玉県マップ・説明書をつくろう。

まとめ：埼玉県は、西から山地、台地、低地と地形が変わり、それぞれの地形にあった産業が発達している。また、産業にかかわって交通が発達している。さらに、低地に人口が集中している。

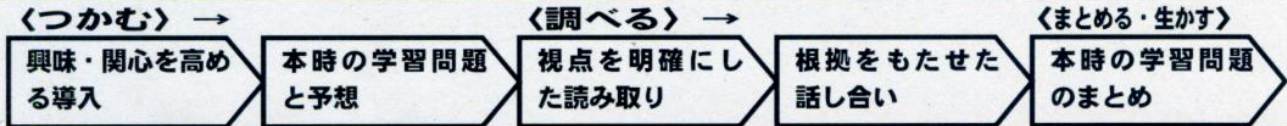
成果

- 休み時間や放課後などに自ら地図帳を開いて地名を覚えている様子が多く見られるようになった。
- 研究以後の授業において疑問を持ち、予想し、学習問題を作り、結論を出すという流れが浸透してきた。
- 自分の考えをまとめることが好きな児童が増えた。

課題

- △どの単元においても問題解決的な学習を積み重ねていくことが大事であると分かった。
- △今後も、児童が自然と興味を持ち、もっと知りたい、調べたいと思わせる資料提示(児童の概念を覆す資料提示)を模索していくことが大事であると分かった。

第5学年 小単元名 自動車をつくる工業 (7/9時) 平成25年10月21日



保護者の自動車購入に関するアンケートを提示し、学習内容をより身近に感じられるようにする。

アンケートで多かった「環境」をキーワードに、自動車会社の工夫や努力について、生活経験をもとに予想する。

「ガソリン消費を減らす＝環境保全」ということに気付かせ、「低燃費」という視点で、教科書、資料集からわかる事実を読み取る。

読み取ったことを発表する。さらに、車種別販売台数の資料から、なぜ「低燃費」の車が売れているのか、話し合う。

キーワードを使ってまずは自分たちの言葉でまとめ、それをもとにクラスのまとめを作り上げる。

学習問題: 環境をなるべく壊さない自動車をつくるためにどんな工夫や努力をしているのでしょうか。

まとめ: 自動車会社は、環境をなるべく壊さないように、ハイブリッド車や、リサイクルしやすい自動車等を開発、生産している。

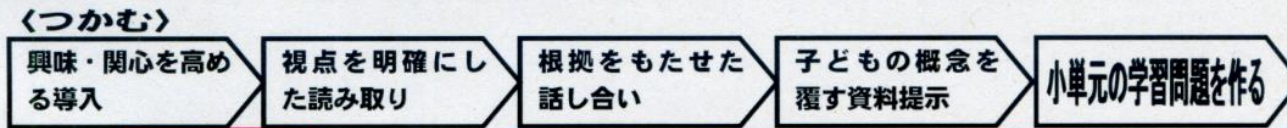
成果

- 事前に自動車工場見学とその新聞づくりをしたため、スムーズに単元に入れた。
- 環境科学国際センターでの体験を生かして予想を考えていた児童が見られた。
- 保護者アンケート・車種別販売台数・自動車会社カタログ等の資料から、必要な情報を入手し話し合いに活かしていた。

課題

- △外部講師招聘等（自動車販売店の方）も検討したが、実現に到らず今後の課題と感じた。
- △「燃費がいい車＝お金がかからない」「巨額の開発費＝企業の利益追求」と考え、環境を守ろうとする企業努力に結び付かない児童もいた。児童の多様な思考を尊重するようにしつつ、社会の見方を育てたい。

第6学年 小単元名 戦国の世から江戸の世へ (1/10時) 平成25年6月28日



鉄砲と騎馬はどちらが強いのかな？

兵隊が並んでいて、その前に柵がある！

デジタル教科書の映像や実物資料のロールプレイで、この時代や戦のイメージをもたせる。

「織田軍の戦い方」に視点を絞り、長篠の戦いの絵から分かる事実を読み取る。

読み取ったことをもとに、「織田軍の戦い方」の工夫を発表し、話し合う。

織田信長の領地が大きく拡大したことが分かる資料を提示し、疑問をもたせる。

児童から生まれた疑問をもとにし、小単元の見通しがもてる学習問題を作り出す。

小単元を貫く学習問題①: 織田信長は、どのようにして領地を広げていったのだろうか。

まとめ①: 織田信長は、鉄砲を大量使用した戦い方や商業・工業を重視するなどの新しいものを取り入れて領地を広げ、天下統一を目指した。

成果



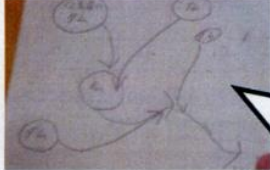

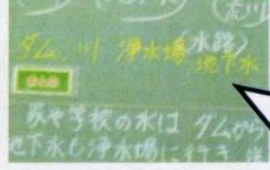
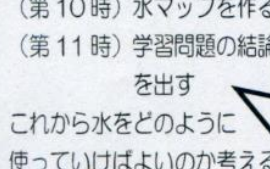
- 鉄砲を見せて興味・関心が高まり、発言が意欲的になったことから、実物資料の大切さが分かった。
- 織田信長の領地拡大図を見せて学習問題のもととなる疑問（どうして短期間にこんなに領地が広がったんだろう？）が生まれたことから、資料のねらいを明確にすることの大切さが分かった。

課題

- △より多くの児童が進んで自分の考えを伝えられるように、自分の考えを書く時間を十分確保したり、グループで意見交流をしたりなどの手立てが必要である。
- △教師が説明しすぎないようにするために、「どの資料をもとにしているのか」「なぜそう思うのか」などの切り返しを効果的に行う必要がある。

H26 学年の取り組み

第4学年 平成26年6月16日
水はどこから (研究授業3/11時)

つかむ	<p>(第2時) 学習問題を作る。</p>  <p>ふじみ野市1日の水使用量1人あたりは牛乳1,605本分という量の多さから驚きや疑問を出し合う。</p>
	<p>わたしたちの使っている安心・安全な水は、どのようにしてわたしたちのもとに来るのだろうか。</p>
調べる	<p>(第3時) 家や学校の水はどこから来るのだろうか。</p>  <p>左から雨、川、池の水と水道水(いずれも実物)を見せて、違いを見つける。</p>  <p>水の通り道を示した地図(埼玉県・ふじみ野市の2枚)を見てノートにまとめる。</p>  <p>調べて分かったことをみんなで出し合い、水の通り道を完成させていく。</p>  <p>本時のめあてに沿ったキーワードを児童と考え、まとめを作る。</p>
まとめる・生かす	<p>(第10時) 水マップを作る (第11時) 学習問題の結論を出す</p> <p>これから水をどのように使っていけばよいのか考える</p>  <p>水マップに学習したことや考えたことを書き込み、理解を深める。</p>

【小単元を終えて】

- 牛乳パック(実物)の数から水の使用量を実感して学習内容を身近に捉えさせることができた。
- 雨、川、池の水と水道水(実物)との違いに気づかせることで、関心や問題意識をもたせることができた。
- △2つの資料(埼玉県とふじみ野市)を関連させて調べる活動に慣れておらず、読み取りが難しかった。
- △考えを深めるために、ペアやグループ活動を効果的に設定することが大切であることがわかった。

第6学年 平成26年7月11日
武士の世の中へ (研究授業4/5時)

つかむ	<p>(第1時) 学習問題を作る。</p>  <p>武士の館や、迫力ある武士の戦いの絵から、驚いたこと、気付いたこと、疑問を出し合う。</p>
	<p>武士はどのようにして勢力を強め、国を治めていったのだろうか。</p>
調べる	<p>(第4時) 元寇をきっかけに鎌倉幕府の力はようになっていったのだろうか。</p>  <p>元が日本に攻めてくるまでの経緯を、地図や、フビライの国書等で確認する。</p>  <p>元寇の絵や、NHKのビデオ教材から、両軍の戦い方の違いを考える。</p>  <p>元寇の結果や、鎌倉幕府の衰退の理由について調べ、発表し合う。</p>  <p>本時のめあてに沿ったキーワードを児童に提示し、各自でまとめを作る。</p>
まとめる	<p>(第5時) 学習問題の結論を出す</p>  <p>ホワイトボードに考えたことをグループごとにまとめ、理解を深める。</p>

【小単元を終えて】

- 鎌倉時代の様子の資料を視覚的に提示することにより、児童の興味・関心を引き付け、学習の意欲を高めさせたり、持続させたりすることができた。
- 話し合い活動や、グループでのまとめ作業に取り組むことにより、自分の考えを整理したり、相手にわかりやすく伝えたりすることができる子供が増えた。
- △グループ活動は、調べたりまとめたりするのが苦手な子供が発表力のある子供に頼ってしまいがちだった。

研究の成果

興味・関心を高め、問題意識を持たせる資料提示の充実

- ・実物資料や身近な資料の工夫で、子供の興味・関心を高めるとともに、資料から「問いかけ」(発問)を工夫することで、学習のねらいに対する問題意識をもたせることができるようになってきた。



単元を見通した授業構成

- ・知識の構造図を活用して単元計画を組むことで、教師が学習に見通しを持てるようになり、単元を通して子供たちに目に見える社会的事象(様子、事実)を調べさせ、その理解を基にして「目に見えない社会事象(意味、価値)」を考えさせることで、子供たちの知識を積み上げあげられるようになってきた。

1 時間の授業の流れの確立

- ・子供たちの「問い」(疑問)から1時間の授業の流れを組み立てていくことで、子供が学習のねらいをとらえ、ねらいに沿って思考する力が身についてきた。

今後の課題

○子供同士が意見交流する活動の工夫

- ・より多くの子供が進んで意見を言ったり、友達の意見と比べたり関連させたりして、多面的に考えを深める話し合いの指導法の工夫が必要である。

○「学びの土台」と社会科とのつながり

- ・「学びの土台」と「社会科」とのつながりを、より明確に捉え、低学年から着実に指導を積み重ねていく必要がある。

ご指導いただいた先生方

埼玉県教育委員会義務教育指導課指導主事	加賀谷 徳之 先生	西部教育事務所教育支援担当指導主事	抜井 由美子 先生
埼玉大学教育学部附属小学校校内教頭	細村 一彦 先生	ふじみ野市教育委員会指導主事	鈴木 達也 先生
川越市立博物館指導主事	寺内 和広 先生	狭山市立入間川小学校校長	千葉 収 先生
所沢市立南小学校校長	増田 英明 先生	富士見市立富士見台中学校校長	児玉 亮一 先生
所沢市立小手指小学校教頭	五十嵐 和彦 先生	坂戸市立上谷小学校教頭	大崎 和彦 先生
所沢市立若狭小学校元教頭	滝口 義廣 先生	入間市立宮寺小学校教頭	小田 誠 先生
三芳町立唐沢小学校教頭	武蔵 昌行 先生	越谷市立大沢北小学校教諭	中山 正則 先生
所沢市立上新井小学校教諭	新井 祐紀 先生	川越市立高階南小学校教諭	金田 健 先生
飯能市立原市場小学校教諭	山下 隆行 先生		

研究に携わった職員

森川 哲治	宮下 宏樹	溝江 春康	中村 美宏	隅田 夏子	町浦 草矢	高橋 美保子
児玉 哲雄	村上 悠子	宮園しほ美	川田 正子	佐藤 朱	茂木 賢一	溝口 雅史
鈴木あさみ	及川 恒平	土屋恵美子	村山 香織	福田由美子	川田 紗織	佐藤 祐子
綾部 高志	新荻 由美	田辺 巧	櫻羽真由美	新井 貴子	金澤 広明	小熊 榮子
ジョシュア・パーク	笠原 央樹	梶原 智子				